

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成25年6月27日 (2013.6.27)

【公開番号】特開2010-280888(P2010-280888A)

【公開日】平成22年12月16日 (2010.12.16)

【年通号数】公開・登録公報2010-050

【出願番号】特願2010-126255(P2010-126255)

【国際特許分類】

C 0 9 B 67/20 (2006.01)

C 0 9 B 23/00 (2006.01)

C 0 7 D 209/22 (2006.01)

【F I】

C 0 9 B 67/20 F

C 0 9 B 23/00 L

C 0 7 D 209/22

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月13日 (2013.5.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

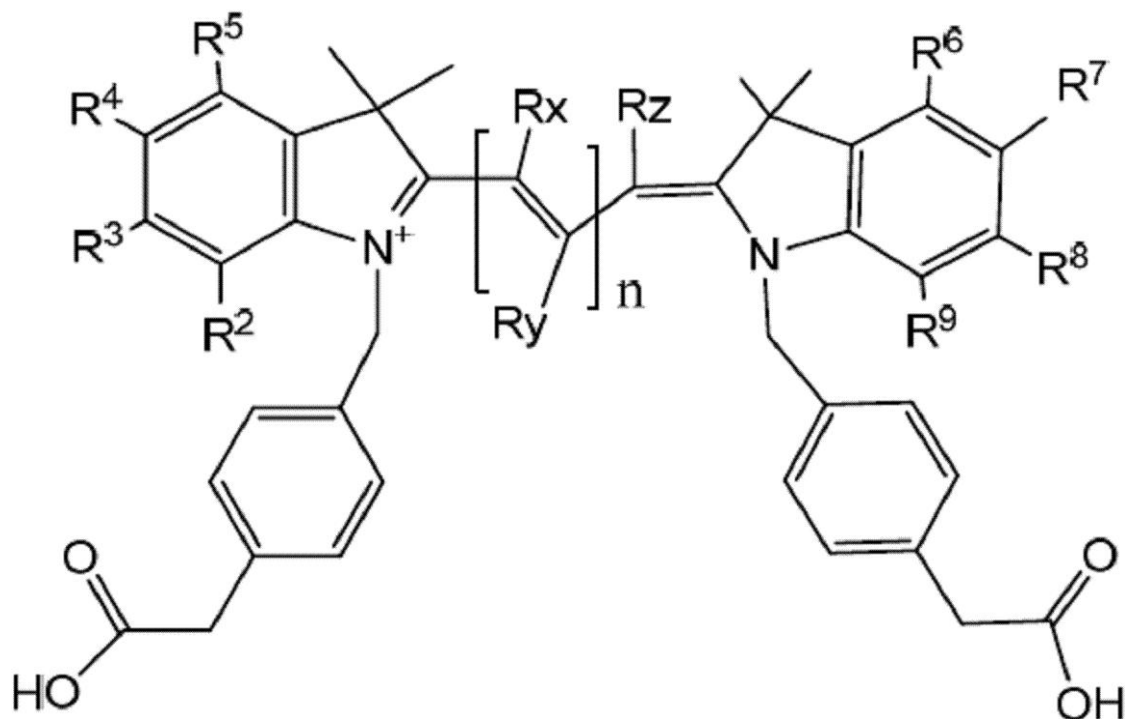
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記の式の化合物、又はその異性体、エステル、アミド、酸ハロゲン化物、酸無水物、及び／若しくは塩を含む複合体であって：

前記化合物は、カルボン酸基又はその誘導体のいずれかでの結合ペアの構成要素を介してプローブ、リンカー、標的、重合体、生体分子、低親和性擬似標的、結合ペアの 1 の構成要素、光学的に活性な分子種、及び／又は基材から選択される第二の分子種に結合する複合体。

【化 1】



(式中、 n は0、1、2又は3であり；

R^2 から R^9 は、H、 $-SO_3H$ 、置換されていてもよいアルキル、又は置換されていてもよいヘテロアルキルからなる群から独立に選択され、ここで R^2 から R^9 のうちの隣接する任意の2つの構成要素が一緒になって、1以上のヘテロ環原子を含んでいてもよい、置換されていてもよい5員から7員のモノ不飽和又はポリ不飽和縮合環を形成していてもよく；及び

R_z 、並びに各繰り返し中の R_x 及び R_y は、H、アルキル、アルコキシ、ヘテロアルキル、ヘテロアルキロキシ、 $-CN$ からなる群から独立に選択され、又は R_x 、 R_y 、及び R_z のうちの隣接する任意の2つの構成要素が共有結合して、1以上のヘテロ環原子を含んでいてもよい、置換されていてもよい4員から7員のモノ不飽和又はポリ不飽和環を形成していてもよい。)

【請求項 2】

R^4 及び R^7 がそれぞれスルホン酸である請求項 1 の複合体。

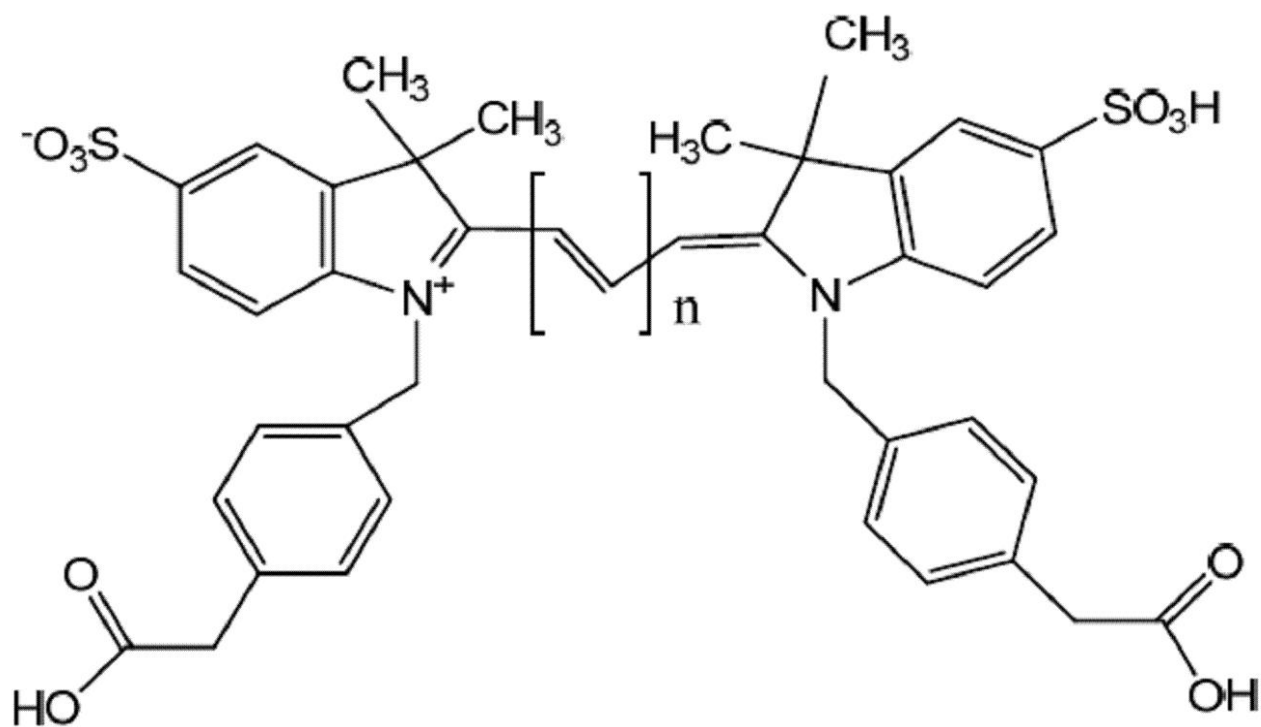
【請求項 3】

下記の式構造を有する化合物、及びそれらいずれかのエステル、アミド、酸ハロゲン化物、酸無水物、異性体、及び/又は塩から形成される複合体であって、

示された前記化合物は、置換されたアルキルアリール上の少なくとも1つのカルボン酸基又はその誘導体を介して、第二の分子種の少なくとも1つに結合する請求項 1 の複合体

。

【化 2】

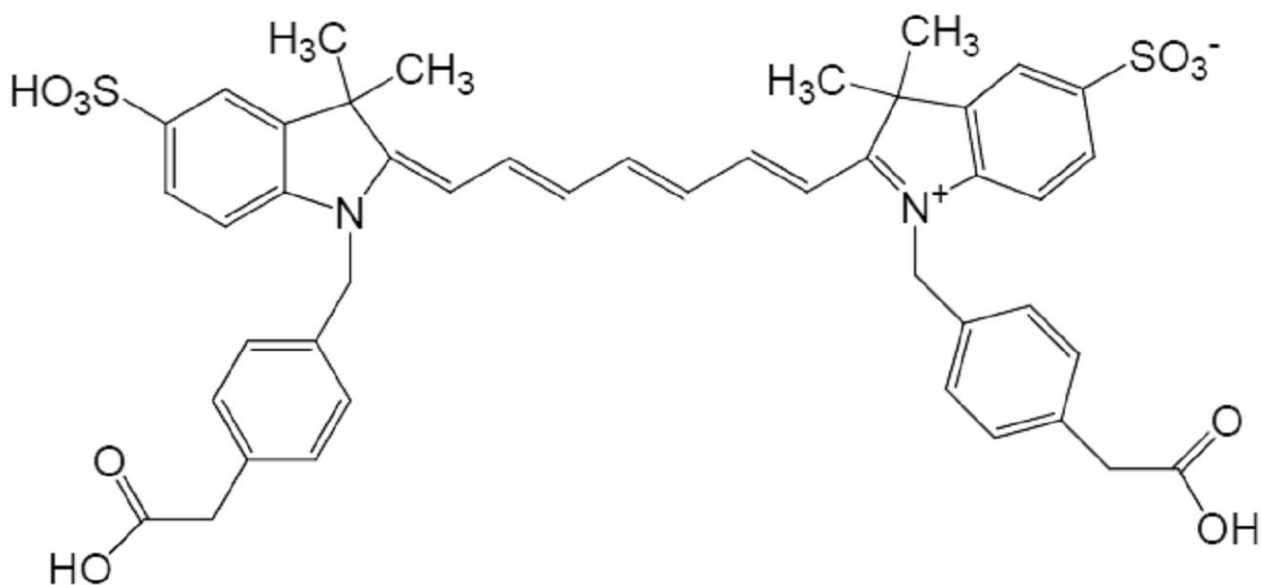


(式中、n は 0、1、2 又は 3 である。)

【請求項 4】

化合物が、下記の式の構造を有するか、その異性体、エステル、アミド、酸ハロゲン化物、酸無水物、及び / 又は塩である、請求項 3 の複合体。

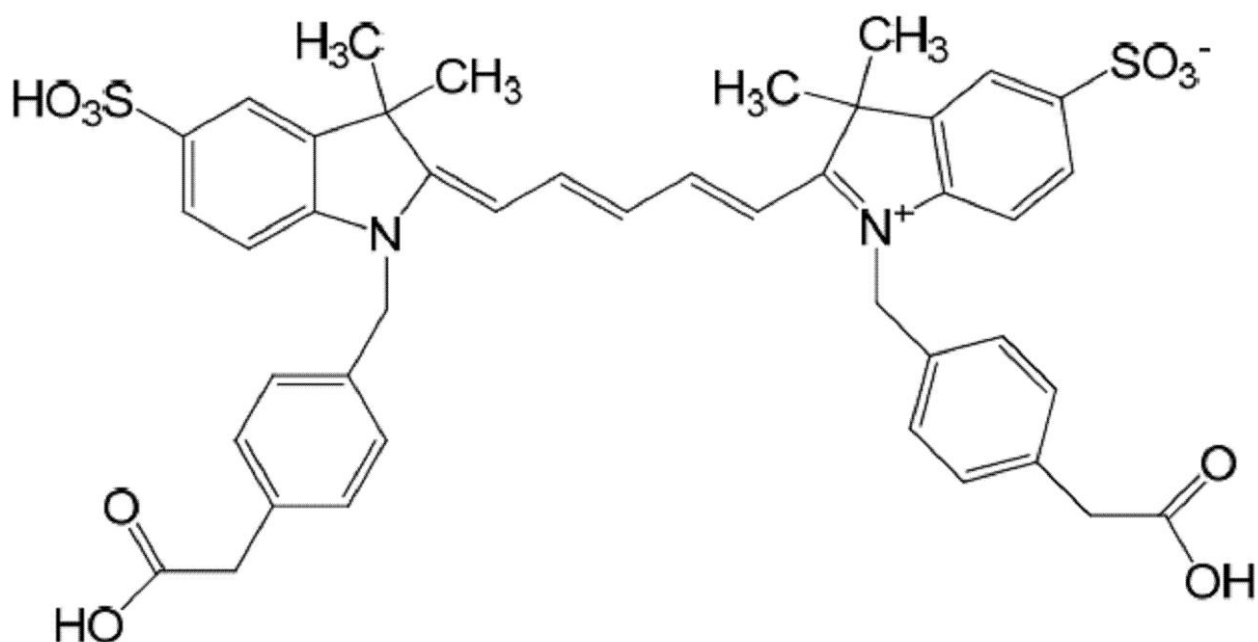
【化 3】



【請求項 5】

化合物が、下記の式の構造を有するか、その異性体、エステル、アミド、酸ハロゲン化物、酸無水物、及び / 又は塩である、請求項 3 の複合体。

【化 4】



【請求項 6】

化合物が、下記の式の構造を有するか、その異性体、エステル、アミド、酸ハロゲン化物、酸無水物、及び / 又は塩である、請求項 3 の複合体。

【化 5】

